

リーディングDXスクール事業【実践事例】

川越市立川越西小学校（埼玉県）

【取組内容①】ワークシートのクラウド化による協働的な学びの加速

標準のクラウドサービスなどを活用し、共有を前提として児童同士で横展開ができる学習活動のための工夫です。



↑ ジャムボードによる各班の意見整理（社会科）

↓クラウド上の学習支援ソフトに各自が意見を入力し、担任がファシリテートしながら学習が展開していく（道徳）



↑ CHROME MUSIC LABで表現した作品をクラウド上に投稿し、曲を聴いての感想を相互に記入（音楽科）

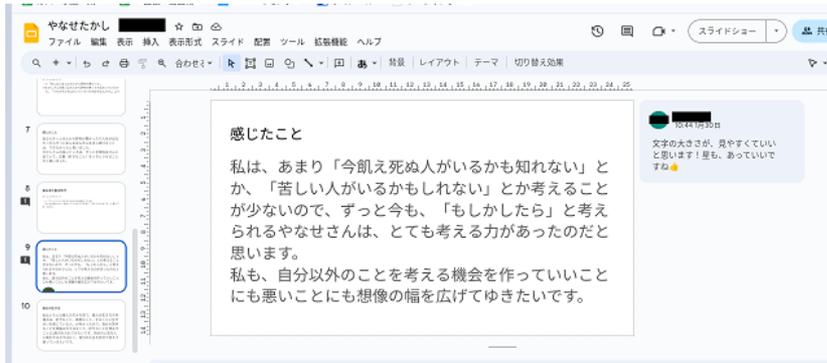
学習活動で使用するワークシートを紙で作成するのではなく、できるところから児童の端末に配信できるようデジタル化している。

はじめは今までの紙のワークシートをデジタル化したようなものだったが、今では端末での活動を前提として学習活動を組めるようになってきた。

▶クラウド化することで、学習活動が家庭でも連続するよう場面も見えてきた。

【取組内容③】 端末の日常的な持ち帰りによる、学校との接続と学びの機会の確保

端末を日常的に持ち帰り、クラスルームを活用することで、学校と家庭との接続強化と学びの連続性を確保するための工夫です。



↑授業の成果物をスライドでまとめる。
家に帰ってからも自分の課題に取り組んでいる。

学習上のワークシートや成果物となるものを、クラウド対応のスライドやドキュメントなどでまとめるようにした。授業中は普通に使用し、必要に応じて続きを家庭でも取り組めるようになった。課題によっては、家庭で考えをまとめてきて授業で話し合う“反転学習”的な活用も行えた。

また、学級の係活動でも児童がクラスルームやクラウドサービスを活用し、意欲的に活動することができるようになった。

▶クラウド化することで、時間や場所の制約なく学びを継続することができるようになった。



↑自分の意見を事前にまとめる課題を設定する。
(次の授業で意見をもとに話し合う)



↑放課後に児童が係活動を行っている。
クラスルーム上では交流も盛んに。

【取組内容③】 端末の日常的な持ち帰りとクラウドの活用による、学校との連絡手段DX

端末を日常的に持ち帰り、標準のクラウドサービスなどを活用することで、保護者の負担軽減と学校の利便性向上に向けた工夫です。

2月9日(金)

2月13日

- 1 さんすう
- 2 おんがく
- 3 せいかつ
- 4 こくご
- 5 こくご

し:らくらく②
あのねちょう
どくまら1ます

☆ずこうきょうかしよ
6, 17, 18, 22
もってくる

日付	学年	出席	欠席	理由	遅刻	早退	欠席理由	備考(欠席)
15日	5-3	2	36	わかれ				
15日	5-3	9	36	わかれ				
15日	5-3	23	35	よい				
15日	5-3	29	36	わかれ				
15日	5-3	36	36	よい				

← 朝の欠席・遅刻等の連絡をフォームを使って実施。その結果は各クラス単位・学校全体で一覧できるので、学級・学校全体の欠席状況の把握がスムーズ。

↑ クラスルームへの連絡帳(スライド)投稿で、休みの人も等しく確認できる。

様々な事情により登校していなくてもオンラインで教室とつないでおくことで、児童は教室の雰囲気を感じられ、教師は必要な連絡を伝えることができる。学級閉鎖時は児童の健康状態を把握し、授業を進めることもできた。

▶ クラウド化することで、学習活動が家庭でも連続するよう場面も見えてきた。



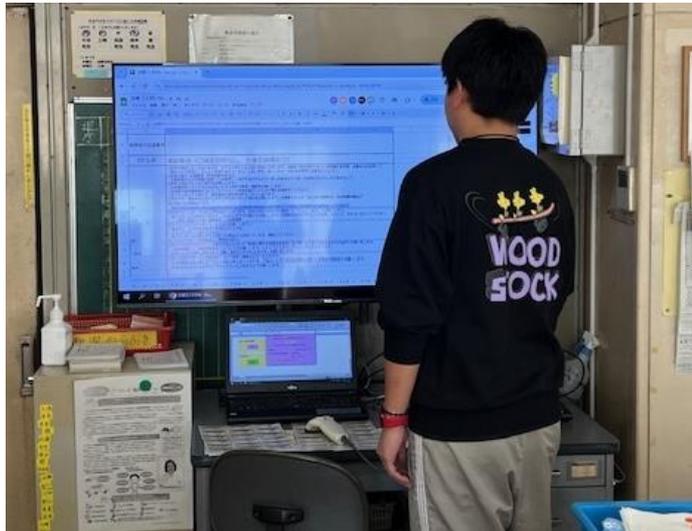
↑ 通常の授業もオンラインで配信。通常の欠席や別室登校の児童にも活用できた。学級閉鎖時も毎日朝の会や課題の配信などを行い、児童の様子を把握することができた。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

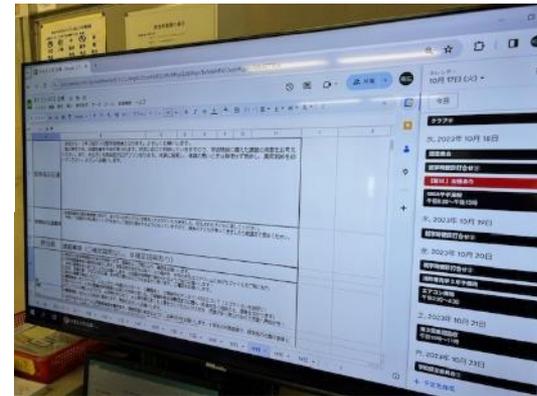
川越市立川越西小学校（埼玉県）

【取組内容④】 一日の流れを可視化し、学校内外で共有するための工夫

標準のクラウドサービスなどを活用し、
今までの日報をクラウド化し、校内情報の共有と提示の利便性を高める工夫です。



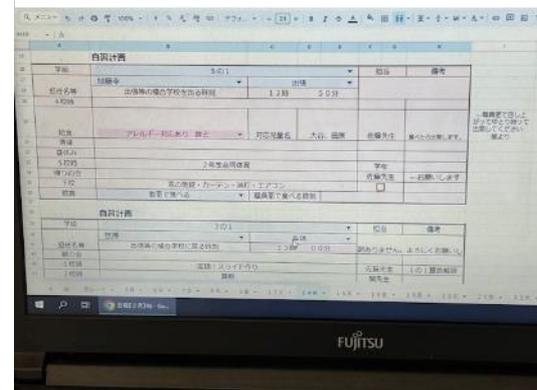
←職員室に設置した
大型ディスプレイ
で情報を一覧表示。
出勤時に本日の流
れを確認できる。



↑日報にあたる部分をスプレッドシートで作成し、
カレンダーで予定や出張を同時表示。

前日夕方には作成しなければならなかった紙での日報を標準ツールを用いてクラウド化した。日にちごとのタブで整理したスプレッドシートには連絡事項や補教の予定などが記され、カレンダーで予定と出張が一覧できるようにした。

▶クラウド化することで、急な体調不良や出張等で学校に居なくても確認や修正が可能となり、大画面で示しておくことで確認も容易になった。



↑日報をスクロールすると、年休や出張で自習となる教室の補教計画を入力・確認できる。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

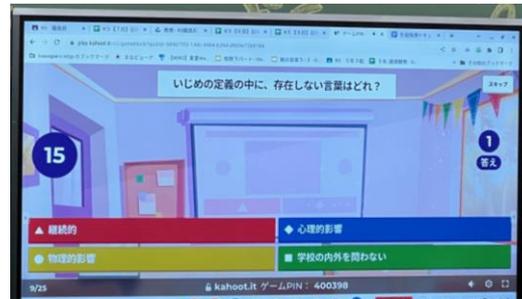
川越市立川越西小学校（埼玉県）

【取組内容④】 主体的に研修に参加し、協働的に学び合うための工夫

標準のクラウドサービスなどを活用し、
教職員が主体的に参加し、協働的に学ぶための研修の工夫です。



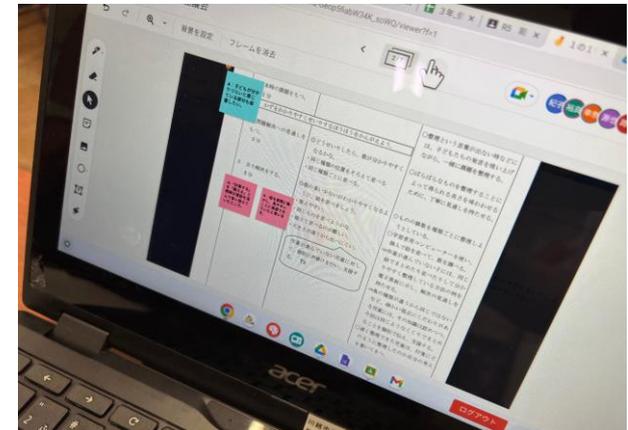
↑授業でも使うクラウドサービスを活用し、
意欲を高め双方向性を持たせた研修となった。



↑クラウド上のクイズ作成ソフトによる基礎知識の確認が、参加者の実情に合わせた講義のための資料となる。



↑校内授業研究会の全体会は端末の活用を前提として臨む。



↑授業に関する資料をクラウド上で共有し、書き込んだものをもとに話し合う。

職員研修ではchromebookを常に傍らに置いて実施した。クラウドサービスを活用して授業と同じように研修を進めたり、資料を共有して意見を協働編集したりして“全員が一人一人関わる”研修を目指した。

▶クラウド上での共同編集だと、他者の考えがすぐ見えるので意見交換がしやすい。会話が生まれるまでの時間が短く、こちらに時間が取れる。